

いよいよ田植えの時期がやってまいりました。九州では3月下旬～4月に田植えをする早期米もありますが、多くの地域ではこれから田植えの時期を迎えます。今年の夏も暑くなる予報ですので、暑さに負けない稲作りを心掛けることが秋の豊作につながります。

前々号(Vol. 32)では育苗中の追肥や弁当肥えでの千代田化成の使い方についてご紹介しておりますが、今号では田植え後の千代田化成の効果的な使い方についてご紹介いたします。早期に活着させて有効茎を確保することが、暑さに負けない頑丈な稲体を育てます。

これまでもご紹介している、**千代田化成**による**らくらく施肥法**は少量でも均一な施肥ができますので、田植え後7～10日に施肥する「根付け肥」に効果的です。

施肥時期 ⇒ 田植え後7～10日

施肥量 ⇒ 10kg/10アール

動画で詳しい紹介をしておりますので、是非、ご視聴ください。



詳しい施肥方法はこちら

施肥動画はこちら(youtube)



QRコードを読み取って表示されたリンクよりアクセスできます。

～活着期の水管理のポイント～

- ・苗の活着適温は25～30℃で、限界水温は12～13℃程度。
- ・日中に水温を上げられるように、入水は朝にする。
- ・気温が25℃程度ならば、日中は3～4cmの浅水にし、夜間は5cm程度の深水管理。
- ・気温が20℃以下の強風の時は、苗が3/4程度浸る深水管理で保温と擦れを防止。
- ・気温が30℃以上の時は、深水管理で葉からの蒸散を抑制。

らくらく施肥ができない圃場では千代田化成を粒状化した千代田エースもございます。

新商品

亜リン酸・有機酸入り液肥

ケレス-N
N P K
10 - 20 - 13



ケレス-P
N P K Mg
0 - 20 - 13 - 2

新規液肥の「ケレス」をご紹介します。ケレスは**亜リン酸**と**有機酸**を絶妙なバランスで含有しており、さらに**糖**を加えていることで植物生育に必要なエネルギー代謝をサポートする効果があります。各成分の効果や特徴は次の通りです。

亜リン酸	健全な生育	亜リン酸には、通常のリン酸にはない特殊な機能があることが知られています。不良環境下(低日照、高温、低温)での生育維持や増進、成り疲れ防止や樹勢回復。さらに、収穫物の着色の向上や糖度上昇などの品質向上の効果も期待できます。
有機酸	代謝活性化	植物体内で糖からエネルギーを発生させる代謝サイクルでは酢酸やクエン酸等の有機酸が合成されます。外部から有機酸を与えることで代謝を活発にする効果が期待できます。
糖	エネルギー源	植物は光合成により糖を合成して、自らのエネルギー源として利用しています。外部から糖を与えることでエネルギーを補う効果が期待できます。

各地で試験展開中！！

トマトの栽培が盛んな地域の一つである長崎県諫早市でのミニトマトの試験をご紹介します。

品種：小鈴クイーン

ケレス-Nを1000倍希釈で3回葉面散布
(1回目：2/26、2回目3月4日、3回目：3月25日)

生産者のKさんは、花芽の着生や花形が良く、土壌からの窒素吸収も促進されているように感じるとコメントされていました。今後も各種作物に対する効果を確認していきますので、次の機会にもご紹介させていただきます。



豆知識
ケレス(CERES)とは古代ローマの豊穡の女神です